

112 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座  
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (5)

テーマ：観光と地方創生

—滞在型旅行者と多言語対応—

山口和彦 (第四講座 / 要約)

2023. 10. 12

## はじめに

近年、日本の観光政策は「入境観光」（日本を訪れる外国人観光客）に焦点を当てています。その背景は、小泉首相が2003年に訪日外客数が出国日本人数を下回っている事実に基づいて観光立国を宣言しました。同年、『訪日活動 (Visit Japan Campaign)』が開始され、2013年には『観光アクションプログラム』が実施されました。2015年には地域の「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成することを目的として、観光地域づくり法人 (DMO) の登録制度を創設しました。これは、少子化、高齢化、地域格差の拡大などの課題に対処し、地方創生を促進するための政策です。その一環として、地域おこし協力隊を設立し、海外経験を持つ旅行関連の労働者や技術者を日本に招き、地方コミュニティの国際化と地域観光の振興を支援するプログラムが実施されています。

## 1. 自己中心の体験活動

観光ニーズと観光スタイルは時代とともに変化しています。観光ニーズは、観光スポットの訪問、地元の美食を楽しむ、記念品の購入から、ますます自己主導型の体験ツアーへと移行しています。過去数年間、人々は日常生活と異なる地方ツアーや冒険を求め、そのニーズがますます高まっています。休暇を利用してインターンシップを行ったり、ボランティア活動による「移住体験ツアー」のライフスタイルが注目されています。彼らは現地の人々と交流し、その地域の文化や習慣を深く理解することを望んでおり、自己中心体験アクティビティを求めています。

## 2. 外国人旅行者のタイプ

西洋の国々とアジアから来る旅行者のスタイルには差異があります。欧米からの観光客は、日本に滞在する時間が長く、都市や田舎に関係なく、日本の文化に非常に高い興味を示しています。一方、台湾、韓国、中国からの観光客は、

頻繁に日本を訪れていますが、滞在時間は短く、ショッピングと飲食を楽しむことが多いです。これらの傾向の観察から、ますます多くの人が自分の好みに合わせて旅行をするようになっていきます。たとえば、アニメの聖地巡礼や、数週間のアパート滞在やスキーなどのアクティビティを楽しむリゾート旅行などがあります。

### 3.多言語環境への対応

日本観光庁の調査によると、外国人旅行者が主に直面する問題は、多言語の表記やコミュニケーション、そしてWi-Fiの不足です。多言語対応は必要ですが、旅行者の体験においてすべての要素が多言語対応である必要はありません。たとえば、レストランでの注文時にお客様が困難に直面することがよくありますが、写真メニューや指差しなどの方法で問題を解決することができます。さらに、多言語対応は必ずしも英語だけで十分だという意味ではありません。東アジアからの多くの観光客は多少日本語が分かるので、「簡単な日本語」で対応することも考えられます。

最後に、川口教授は、多言語対応は外国語に限らず、都市と地方の距離を縮め、デジタル化が旅行者にもたらす便利性を考慮に入れる必要があると指摘し、これらは基本的な多言語対応の一部であると述べました。

中文整理：徐興慶

日本語訳：陳順益